

集団インフルエンザ学校で相次ぐ

識者「コロナ対策緩和影響か」

季節性インフルエンザの集団感染が全国各地の学校で相次いでいる。5月に入っても全国で「流行」レベルの感染状況が続いており、5000人規模の集団感染が分かった学校もある。専門家は新型コロナウイルスの感染対策が緩和された影響などを指摘する。

ルの大きな流行はなかったが、今シーズン（22～23年）は、昨年12月末に

5月の流行戸惑いも

全国の学校で季節性インフルエンザの大規模感染が確認され、体育祭などのイベント前後の感染拡大も目立っている。宮崎市内の高校では5月9日、生徒1人の感染が確認された。当時は感染者の人数は限定されており、学校はその週末、全校生徒が参加する体育祭を予定通り開催した。すると週明けから感染が急拡大し、生徒と職員を合わせた感染者は15日に394人、16日には491人にのぼった。学校は15日から22日までの休校を決めた。市によると体育祭で、優勝を喜ぶ生徒たちが集まり声を出す場面があったという。大分市内の高校でも体育祭の2日後の5月11日、47人がインフルエン

イルスが5類に移行したことを踏まえ、担当者は「人の動きが活発になり、ほかの地域でも集団感染が同時多発的に起きていた。注意喚起のため発表した」と話す。

新型コロナウイルスの感染拡大時は対策が徹底された結果、インフルエンザの感染が抑えられていた。日本感染症学会インフルエンザ委員会委員の菅木洋介・佐賀大学医学部教授は「この3年間ほどインフルエンザのウイルスにさらされる機会が減ったことで、とくにインフルエンザへの免疫が少ない若い世代で感染が広がりやすくなっている可能性がある」という。

学校では今年度から、新型コロナウイルスの感染対策が緩和され、マスクの着用は個人の判断となった。青木教授は「コロナへのガードがゆるめば、インフルエンザへのガードも落ちる」と指摘する。

対策としてはコロナと同様にマスク着用や換気、手指の消毒が有効だという。ただし「インフルエンザにはよく効く薬があり、新型コロナウイルスの感染拡大時のような厳しい感染対策に及ぶ必要はない」とも話している。

厚生労働省 日本学校保健会の資料から
学校でのインフルエンザ感染対策

健康観察	熱やせきなどの症状があるとき、体調がすぐれないときは登校しない
手洗い	せっけんをよく泡立て、30秒ほどかけて指先や指の間、手首も洗う。アルコールによる手指消毒も効果がある
マスク	流行時や人混みに入る場合は着用
せきエチケット	せきやくしゃみをする際は口や鼻をティッシュやハンカチ、袖で覆う
換気	換気設備での常時換気か、対角線上の窓やドア2カ所を開放。難しい場合はこまめに窓を全開に
湿度	湿度50～60%を保つと効果的
消毒	多くの人が触れるドアノブやスイッチは1日1回消毒



全国の学校で季節性インフルエンザの大規模感染が確認され、体育祭などのイベント前後の感染拡大も目立っている。宮崎市内の高校では5月9日、生徒1人の感染が確認された。当時は感染者の人数は限定されており、学校はその週末、全校生徒が参加する体育祭を予定通り開催した。すると週明けから感染が急拡大し、生徒と職員を合わせた感染者は15日に394人、16日には491人にのぼった。学校は15日から22日までの休校を決めた。市によると体育祭で、優勝を喜ぶ生徒たちが集まり声を出す場面があったという。大分市内の高校でも体育祭の2日後の5月11日、47人がインフルエン

ザを理由に欠席した。15日には欠席者が403人に急増し、16日まで休校した。学校によると、体育祭では綱引きや障害物リレーなどのほか、全校生徒約2千人が応援合戦を展開していたという。通常、インフルエンザの流行は3月ごろまでで、5月の集団感染に戸惑いの声もある。兵庫県内でも4月下旬ごろから学校でのインフルエンザの感染者が増加し、5月8～14日は6校で学級閉鎖となった。県教委の担当者は「暑くなるといってこの時期の流行は珍しい」と話す。

東京都は18日、調布市内の学校で生徒と職員計104人のインフルエンザの感染が確認されたと発表した。新型コロナウイルス

（瀧沢真子、小若理恵）